

兼務メンバーでも止まらない、 週次運用と制作キャパシティ設計

制作会社のノウハウを、社員が再現できる運営の仕組みへ。



作り方ではなく、続け方まで決める。



誰が・何を・いつまでに・何を見て改善するかを、自社の言葉で決めていきましょう。

動画が作れないのではなく、運営が設計されていない。

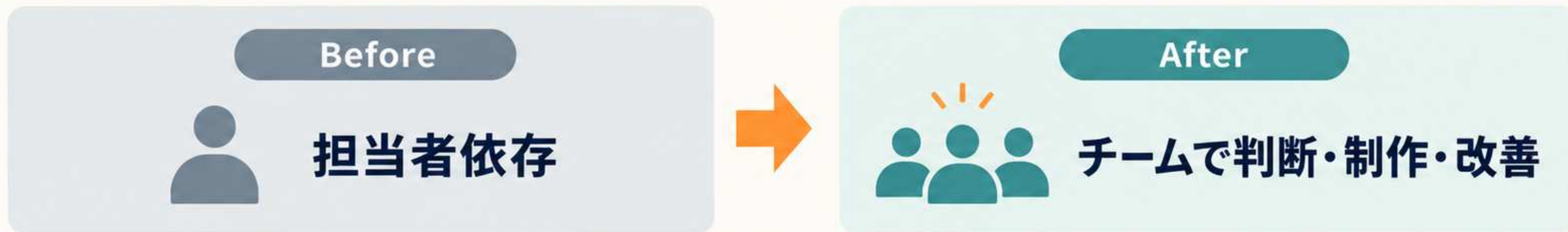
一人に企画・出演・撮影・編集・投稿が集中し、修正理由も曖昧なため疲弊と属人化が進む。



まずは止まる理由を、チームで言葉にしていきましょう。

04 | 内製化の目的を一文にする。

**未経験の社員でも、役割とレビュー基準を共有して
チームで制作を継続できる状態をつくる。**



完成物の本数だけでなく、次の企画を社内で判断できることをゴールに置きます。

次の判断が社内に残る状態を目指していきましょう。

05 | 全部を社内で抱えない。

全員を万能にせず、得意工程を分け、
ディレクターが目的・期限・完成条件をつなぐ。



顧客理解・企画判断・成果学習が自社へ残るかで判断します。



大切な判断を社内に残し、無理のない分担をつくっていきましょう。

制作実務と育成実務を、同じ流れで教えられる。



実績

広告、SNS運用、通販、営業、
採用など、200社以上・
3,000本以上の制作知見

制作フロー

ディレクター・構成・撮影・編集を分け、
複数人で速く品質を揃える制作フローを
運用しています。

社内移管

自社の人員・目的・頻度に合わせて、
実務の流れを一緒に移していきます。



自社の人員・目的・頻度に合わせて、実務の流れを一緒に移していきます。

全員を万能にせず、責任の空白をなくす。



ディレクター

目的・期限・完成条件



構成

誰に何をどう伝えるか



撮影

音・光・画角と素材



編集

構成意図と視聴体験



確認者

事実・ブランド・法務



分析者

数値・顧客反応・次の仮説



兼務可能。ただし責任者名は一人にする。

得意を生かしながら、責任の所在を明確にしていきましょう。

制作開始前の合意が、修正と停滞を減らす。



目的 / 対象 / 一番伝えたいこと / 期待する行動 / 確認者 / 公開日 / 見る数字



最初に合意をそろえ、迷わず進める土台をつくりましょう。

伝えたいことより、相手の判断を先に置く。



原則

一つの疑問に一つの答え

相手の迷いを一つずつほどこ企画をつくっていきましょう。

センスを、再現できるチェック項目へ変える。



必要カットを先に一覧化する

誰が担当しても迷いにくい基準へ変えていきましょう。

高機能より、チームで繰り返せること。

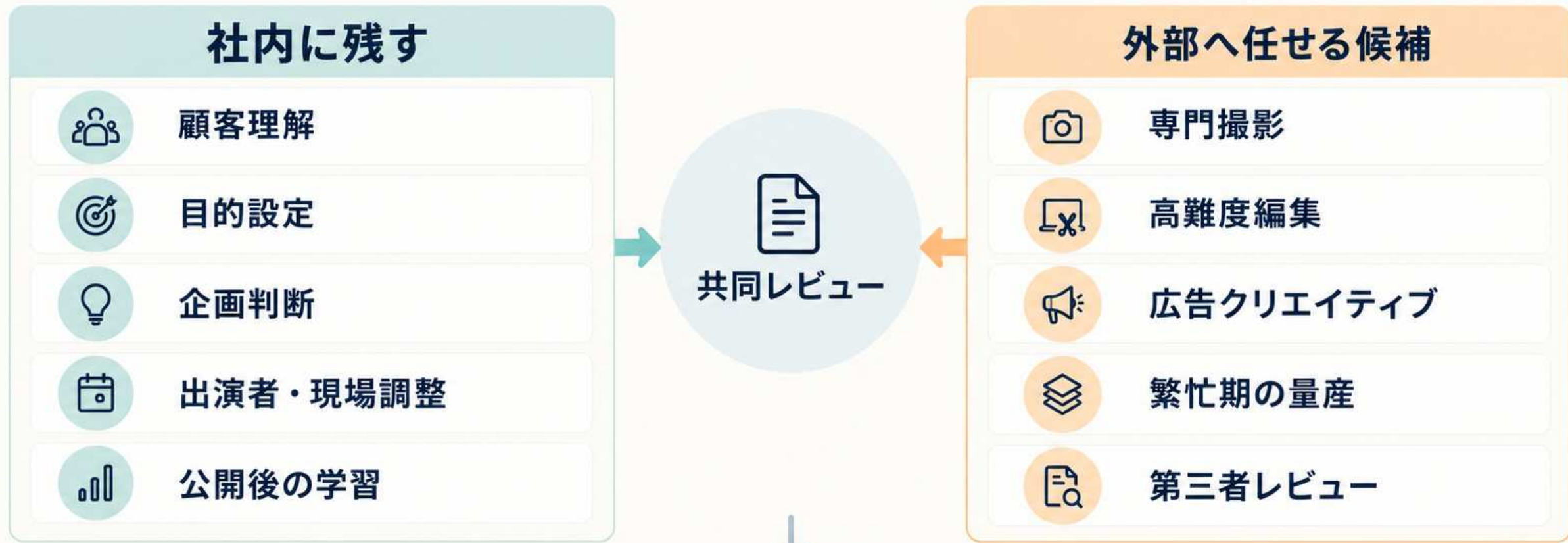
- ✓ 1週間で基本操作を覚えられる
- ✓ テンプレートと権限を共有できる
- ✓ 素材の場所と最新版が分かる
- ✓ 他の担当者へ引き継げる
- ✓ 商用利用・個人情報・生成AIの扱いを確認できる



スマホ + 外付けマイク + 照明 / 編集ソフト / クラウド素材庫 / 企画管理表

続けられる最小構成から、少しずつ整えていきましょう。

判断は社内、変動と専門性は外部で補う。



固定せず、今のチームに合う分担を更新していきましょう。

再生数ではなく、目的までの流れを見る。



役割ごとの
習熟度



レビュー往復回数



期限内公開率



引き継ぎ可能な
テンプレート数



担当者の月間負荷



事実

何が起きたか



仮説

なぜ起きたか



変更

次に一つだけ
何を変えるか



期限

いつ判断するか



予算・期間・対象・導線の違いも記録する

数字と現場の声を、次の一手へつないでいきましょう。

小さく試し、作る範囲を広げる。

月4本から開始。企画と撮影は社内、初期の編集テンプレート作成は外部伴走。
8週間で反応の良いテーマと制作負荷を確認し、社内へ移す範囲を決める。



評価の観点



目的行動につながったか



担当者の負荷は
続けられるか



修正理由と学びを
共有できたか



次に残す型が
できたか



これは成果保証ではなく、検証の進め方を示すモデルです。



小さく確かめながら、自社に合う形へ育てていきましょう。

最初から完成形を目指さない。



90日で学びを残し、次の判断につなげていきましょう。

明日から作るのは、動画ではなく運営の土台。

今日決めること



1 |
内製化で変えたい
経営課題



2 |
最初の視聴者と
テーマ



3 |
社内の責任者と
週の確保時間



4 |
外部へ相談する
工程



5 |
最初の4本を
振り返る日

実制作の流れを見ながら、自社に合う**役割・手順・改善方法**を一緒に設計します。

自社の内製範囲を相談する >

できるところから、一緒に前へ進めていきましょう。